

# 難加工技術展2010

## 難加工技術展

モノづくりが高度化し、加工が困難な素材や形状への対応が求められている。同時に、複雑な工程を省き、効率的に製品を提供することも大切だ。高くなる一方のハードルを乗り越えられるかが、企業の将来の発展を左右する。これは表面改質についても同様。さらに高いハードルを乗り越えていくには、表面機能の創生によって製品のレベルを高めていかなければならない。

7月7日から9日までの3日間、日刊工業新聞社主催の「難加工技術展2010」と「表面改質展2010」が開催される。会場は名古屋港区のポートメッセなごや。入場は無料。同時開催として「ながのモノづくり技術展2010(長野県中小企業振興センター主催)」も実施する。来場事前登録やセミナーの聴講申し込みは同展ホームページ(<http://c117fb19.securesites.net/nan2010form/regist.htm>)へ。時間は10時から17時まで。9日のみ9時半からの開場となる。

会場・ポートメッセなごや(名古屋港区)

## 最先端技術が一堂

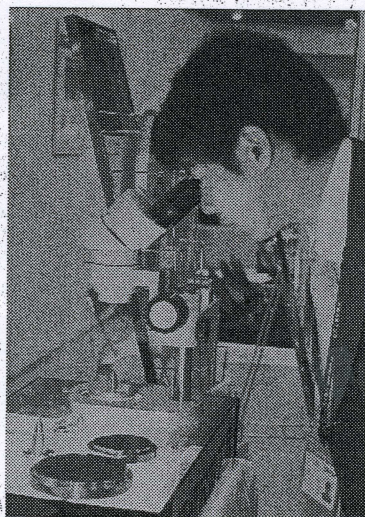
9日まで

難加工技術展は2009年、自動車や航空機の生産拠点が集中する中部地域で開催され、表面改質展は同年、インテックス大阪で開催された。今年は開催地を難加工展とおなじ名古屋に移し、難加工・表面処理にかかわるビジネスマッチングに役立たせる。

### 材料・技術分野

「材料・技術分野」は材料から加工技術まで幅広い

主な特徴を持つ企業が多数出展する。超硬合金素材を扱う東海合金工業やキヤステム、キングパーツなどは高精度化と低コストを両立するロストワックス精密鑄造技術などを展示する。ダイヤモンドは切削加工せずに仕上げた精密冷間鍛造品やチタンなど、難加工材を使った製品を展示する。埼玉県ビジネスマッチング応援隊として県下の切削、プレス、超音波などを工なども注目される。



微細加工技術も展示

駆使した複雑・精密加工技術がまとまった形で紹介される。超硬合金への微細加工技術の精華ともいえるべき金型技術がある。その金型の

可能性を広げるのがテクノロジーの次世代アンダーカット成形ユニット、すっぽん。アンダーカット成形機構をユニット化した新発想の金型装着部品である。

アンダーカットとは射出成型品を型から取り出す際、そのまま離形できない凸凹や横穴のある形状のことをいう。すっぽんを使えばアンダーカット形状を簡単に成形でき、デザイン自由度が広がる。さらに、従来の金型に比べ、取り数の増加や金型の小型化、成形サイクルの短縮など多くのメリットが見込めるという。

ビジネスマッチング強力に